

「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」

福知山線列車事故から11年、安全への気持ちあらたに！

4月25日、福知山線列車事故から11年目にあたるこの日、JR西労組主催の「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」が300名余の仲間を集め開催され、ジェイアール・イーストユニオンからは池田、高橋の両中央執行委員が参加した。

冒頭、主催者を代表して挨拶に立ったJR西労組荻山委員長は、「事故から11年を迎え、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご家族に哀悼の意を表します」と心痛な面持ちで語り始め、「安全問題については組織の枠を越えて取り組み、報告文化の醸成を構築するためにはトップから一般社員まで心をひとつに行動していかなければならない」と参加組合員に訴えた。また、JR連合の松岡会長は挨拶の冒頭で、九州での震災に対するカンパ・支援行動を要請し、安全問題については「重大労災が撲滅できていない。ヒューマンエラーは結果であって原因ではない。重大労災ゼロをめざし、事故を撲滅させるため、働く者の立場から安全を確立する取り組みを進めていく」と、参加組合員に運動の実践を強く求めた。

その後、課題提起として『JR西労組安全提言について』JR西労組羽野業務部長より①現状認識と安全性の向上②重大事故の未然防止に向けた③さらなる報告文化の醸成 について、それぞれのテーマに対する課題や解決策、また今後の取り組みになど具体的に何をすべきかの説明をうけた。

さらに「ヒューマンエラーを減らすために」というテーマについてJR西日本常務技術理事・安全研究所所長の河合氏より講演を受けた。講演では特に a.人間同士のコミュニケーションと共に人間と機械とのコミュニケーションの重要性 b.マニュアル強化は無意味 c.事故の原因を究明し、背景まで遡って再発防止対策を講じる事こそが急務 と指摘された。まさに核心をつく基調講演であり、当社においても活用すべきであると考えた。

閉会の挨拶でJR西労組里内副委員長は、「福知山列車事故から1万名を超えた社員が入社してきた。事故を忘れず風化させない、この事をいつまでも胸にきざみ、これからの組合員に伝えていかなければならない」と語り、参加組合員全員で安全の確立を構築していくことを誓い終了した。集会後、事故現場へ赴き、亡くなられた方々のご冥福をお祈りし献花するとともに、さらなる安全の確立を目指していくことを誓った。

JRE ユニオンも事故を発生させたことを胸に刻み再び事故を発生させない！！

